

## WFAS紹介

## 1998年WFAS国際鍼シンポジウム見聞記

全日本鍼灸学会国際部委員  
渡邊裕

A Report on the International Acupuncture Symposium,  
WFAS'98 Barcelona

Hiroshi WATANABE  
the Department of the International at JSA

1996年のニュー・ヨークの大会で、98年度のWFAS国際シンポジウムがスペインのバルセロナで開かれると決って以来、スペイン大好き人間の私は何をあいても出席しようと心に決めていた。四月ころポルトガルの土屋光春先生から現地の第1次サ・キュラ・のファクスをいただいた。連絡先等ははっきりしない所があったが、10月17・18日の2日間であることは判った。そこで早速懇意にしている旅行社に連絡し、詳細の検討を頼んだが容易に連絡は取れない。結局サ・キュラ・が手に入ったのは6月、岐阜の全日本鍼灸学会学術大会の時であった。演題提出期限は既に過ぎ、参会費も第一次値上げの時期に入っていた。何はさておき申し込み手続きをして、8月末にやっと受付け確認の返事を受取った。その他は全く不明のままに10月16日出発、同じ日のうちにバルセロナに着いた。地球の小さくなったことをあらためて実感した次第であった。

バルセロナは日本と同じ位の秋の気候である。日中は少し汗ばむ位だが、朝夕はかなり涼しい。半袖の姿もあれば冬支度の人も見られる。木の葉はちょっと散りかけているが紅葉には至っていない。暑からず寒からず、良い学会シーズンであった。時差がどうなっているのか、日の入りは6時過ぎで7時でもまだ明るい。しかし日本では日の出も近いという朝の6時はまだ真っ暗、何かなじ

めない時間感覚であった。

会場はバルセロナ会議センター。オリンピックのあったモンジュイックの丘の麓の、有名なカタリニア美術館のすぐ近くである。このあたりはいろいろなイベントのための施設がいくつもある所で、あたり一帯が大きな公園といった趣がある。親子連れやカップルでいつも一日中賑わっている。広場には大きな噴水があって、時間ごとに音楽に合わせての噴水のエキジビションがある。夕方ライトアップされたときは実にきれいであった。

受付を済ませたのが丁度9時、会場に入ってみると演題が始まった所であった。開会式に遅れたかと思っただ、プログラムを見ると開会式は12時半からとなっている。ともかく早速諸会場を「つまみ食い」して歩くこととした。会場は2階と3階に4室あり、連絡はあまり良くない。3階の2つの会場をつなぐ長い廊下が展示会場となっていて、日本と同様に本・薬・器具類などが並んでいる。大半は中国系のようで、韓国系のももいくつか見られた。韓国の鍼が日本と同じ形で、鍼管も使われていることをはじめて知った。

演題の構成を見ると、シンポジウムはなく、教育講演と一般口演から成っている。ポスターセッションのスペースはごく僅かで、ポスターの前での討論の時間は取ってないらしく、抄録集で搜したが判らなかつた。教育講演は69コマのセッシ

ョンのうち47コマと非常に多く、スライドを使わないものも多い。演者の大部分は原稿を見ずに話しており、大袈裟な手振り身振りをまじえての熱演も少なくない。服装まで中国服で話をするという凝ったものもあって、日本の学会ではあまり見られない光景であった。

12時半の定刻、開会式の会場に行ってみた。3~400人位は入るかと思われる会場は既に超満員でとても坐れない。しかたなく一番うしろに立って見ていることとした。会場には各国の国旗が立てられていたが日の丸は見当たらない。いささか腹が立った。今回の会長はソングルヨン(宋達鎔)氏という韓国系の人である。そのためもあってか韓国人らしい人が非常に多く、至る所で韓国語の会話が聞かれた。会場では韓国人のカメラマンが大活躍している。会場にも韓国人が大勢いて、お互い同士の席取り・席の譲りあいには少々見苦しいものを感じた。どこであれ、日本人にはこんなまねはして貰いたくないものだとつくづく思った。

壇上には中嶋宏前WHO事務総長・陳WFAS会長・カタルニア州やバルセロナ市の代表など十数人がならび、次々に挨拶があり、中嶋氏・陳WFAS会長などにプレゼント贈呈があって式を終わった。大勢の参加者がぞろぞろと退席している中で、韓国の人の挨拶(?)が始まった。会場はガヤガヤと騒がしく、誰の話か、何をいつているがよく判らない。アナウンスは盛んに「お静かに!」といていた。その話が終わると、WHOの張小瑞女史の「鍼の安全性と治療効果について」の講演が始まった。プログラムにはマスタ・レクチャ・としてNguyen Van Ghi氏の「ブラジルのサンパウロ大学における、基礎麻酔なしの鍼による鎮痛の供覧」があることになっていて、張女史の名前はない。プログラムの抄録には、張女史の同じ表題の教育講演の抄録は(並んで2つも!)のっているが、会場一覧表には発表の場所が見当たらな

い。得々と話している張女史を見ていると何となく白けて来て、他の人たちと一緒に退席してしまった。開会式が途中にあるのも意外であったが、開会式に続いての講演にも、またプログラムと違った話というのにも少々驚いた次第であった。

一般講演も浅く広く聞き廻ることを心がけた。しかしどの会場にも今の演者と演題を示すサイドスライドがない。途中から入るとどの発表をしているのか皆目判らず、非常に不便であった。

サ・キュラ・には「公用語は英語とスペイン語(一部の会場では韓国語への同時通訳がある)」と明記されていた。プログラムもスペイン語部分が前半に、英語部分が後半にとデザインされていた。講演は英語が意外に少なく、スペイン語の講演が多くあって、欧米とくにスペイン語圏で鍼が広く行われていることがうかがわれた。同時通訳はあったが十分とはいえず、スペイン語を知らない者には随分不便だったのではないかと気になった。どうかと思われたのは英・西語以外の言葉による講演がかなりあったことである。これにもお国びりがあり、トルコの演者はあらかじめ会場の全員に全文英語訳のプリントを配布した上で小さな声でトルコ語で話していたが、スピ・カ・から聞こえる講演は通訳による同時通訳のスペイン語だけであった。イタリアの演者は英語原稿のスライドを出してイタリア語で話していた。しかし中国と



韓国の演者の中には自国語で話し、ひと区切りごとにスペイン語の通訳をつけるという形のものかなりあった。当然8分の制限時間が超過するものも出て来るが、欠席者が沢山あったので何とかなっていた。それにしても大国意識が見え隠れするようで、あまり良い感じのものではない。公用語が全然だめなものは口演は遠慮するか、トルコの演者のような心配りをすべきであると思った。

国際学会に欠席者はつきものであるが、時々目立つことがあった。演題50~55などは6人中5人欠席。座長もさすがに時間をもてあましていた。

ヨ - ロッパでも東洋医学の考えを取り入れる傾向が現れているようである。一般演題でも教育講演でも、このような発表がいくつか見られたのは興味あることであった。その中には、免疫グロブリンの変化を五行に関係づけたらしいもの(イタリア)・慢性疾患の脈診(スペイン)・色と五行と経絡の関係(抄録なく所属不明)・変形性関節症の鍼治療に五行や臓腑弁証を考慮したもの(所属不明)などがあり、考え方は必ずしも日本と同じではないようであるが、興味深く聞いた。ツボの表示にはまだWHOのコ - ドを使っていないものがあるが甚だ判りにくく、WFASの中だけでも早く統一したツボ名の表示を使うようにしたいものと痛感した。

韓国では手鍼が広く行われているらしく、手鍼に関する発表がいくつかあった。その中に、アレルギー - 性鼻炎の治療に主として心包経のツボを使っていたものがあったので、大腸経を使わない理由を質問したがはっきりした答えは得られなかった。

実技供覧はあまりなく、剣を使った太極拳と、坐骨神経痛とリウマチの鍼治療の2つ以外は気がつかなかった。後者では消毒も不十分で、左手で鍼体を持って、指が触れた部分が十分入るほど深く刺し、同じ鍼を使って次々と続けていた。見学者が非常に多く十分には見られなかったが、ちょっと見ただけでも怖ろしく、とてもして貰う気にはなれない。国際学会で手技供覧をする場合には、少なくとも無菌操作には十分注意しないと著しく評価を下げることになる。そのことをまざまざと感じさせられた典型的な例であった。

ポスタ - セッションは14題で、展示会場の隅にあり、スベ - スも狭く、討論のための時間も見当たらない。京都の世界大会の時の盛況と思えば、また「鍼灸最前線」出版に至る素晴らしい成果を考えあわせて、その落差を痛感した次第であった。日本からの発表が断然多く6題あり、更にポルトガルの土屋光春先生がシエ - グレン症候群に対する鍼通電の発表をしていたので、半分が日本人のものということになる。ポスタ - もきれいで、日本の水準の高さを誇りたくなる思いであった。

国際会議の楽しみの一つは懇親会である。17日夜、盛大な懇親会が会場近くのホテルで催された。自由に動きまわられる立食パーティ - を期待していたが、円卓の椅子席であった。何となく日本人ばかり集まってしまったが、スイスとポルトガルの女医さん二人が相席で、おぼつかないポルトガル語でいろいろな話ができて楽しかった。この女医さんは精神科の医師で、治療に鍼も使っているとのことであった。ポルトガルでも鍼を使う医師が少しづつふえているという話である。

18日朝には津谷国際部長に代ってINARMの会議に出席した。INARM (Inter-national Network for Acupuncture Research Methodology) とは、適切な研究歴を持ち、それぞれの国を代表するに足る学者(イタリアのA.Bangrazi教授・オランダのA.Bos博士・フランスのJ.Bossy教授・ノルウェ - のS.Sallstrom博士・日本の津谷喜一郎博士・中国のチュアン・ティン教授など)を中心メンバーとして発足したもので、目的とするところは学識者による鍼研究のネットワークづくりである。今までの経過・規則作りについて・今後の問題点等についての話し合いなどがあり、偏頭痛の鍼治療についてのイタリアの研究に対する討論があった。この会合はWFASの大会やシンポジウムとは独立して開かれ、今回は来年9月に韓国で開催の予定とのことである。

閉会式は開会式と同じ第5号室で行われた。この部屋は最後まで一般演題の会場となっていた。この一般演題が式開始予定の午後2時15分になっても終わらず、結局30分以上遅れて始まることとなった。閉会式は主催者や来賓の挨拶の後、例のごとく次々とプレゼントや各国代表に対する感謝

状贈呈などがあり、最後に来年の開催国に予定されていたインドネシア代表の挨拶があった。なおインドネシアは政情不安のため開催を返上し、来年の開催国はベトナム（日時その他は未定）ということである。開会式に比べると参加者は少なく、15分位すると退席者が続々と出はじめて、終わるころには席が半分も埋っていないという聊か淋しい状態であった。

今回のシンポジウムで感じたことは、第一にヨ・ロッパでも鍼が広く行われ、その中に東洋医学の考えかたが取り入れられつつあるらしいということであった。陰陽・気・五行などというものがどんな風なニュアンスで理解されているのか多少気になるが、だんだんと話が通ずるようになって行きそうな予感がして楽しい思いであった。

WFASにおける中国の諸々に関しては何かと問題があるようである。会場でポルトガルの土屋先生に紹介されて、アメリカ在住の洪伯榮教授とお会いしたことがあった。そのとき洪教授は中国の横暴について大変憤慨しておられた。同教授はアメリカでのWFASの中心的存在の一人であるが、洪教授の所に来たはずの寄付金が知らないうちにことわりもなく使われていたといったこともあったようである。それは兎も角として、中国の影響はWFASに限らずヨ・ロッパでも強くなって行き

そうな感じがする。展示会場の中で、中国系と思われるものが圧倒的に多かったのもその一つの現れと言えるかもしれない。アメリカでは、資格試験のありかたを見ても、「中国流の鍼でなければ鍼ではない」という傾向が現実化しているようである。こんなことが同じような感じでヨ・ロッパにも広がることになり、ニュ・ヨ・クの大会でもめた「国際鍼灸師試験委員会」などといったものが中国ペ・スで行われるようにでもなるとすると、日本としても心穏やかではあり得ない。今のうちから世界に向けてのアピ・ルを心がけることが、極めて大切なことであると痛感した。

一方、ヨ・ロッパにはWFASから離れた立場で鍼を考えるという動きも起こっているようである。前述のINARMは、WFASなどの鍼灸の団体と無関係に、アカデミックな立場から鍼の研究を検討するネットワークで、その一つといえないこともない。また帰途リスボンに立ち寄ったとき、土屋先生から10月10・11の両日、フランスで「21世紀の鍼・東西医学の融合」という会が開かれたことを知らされた。これは参加者は医師に限られるもので、INARMの会議の座長だったBossy 教授も参加していた。このような会合にも、日本からも積極的な参加と働きかけが必要ではないかと思われる。

<p><b>鍼灸広狹神俱集</b> 日6冊、一八〇円        廣瀬子監修 石山針灸学校社 針灸治療院        石山針灸学校社 針灸治療院        石山針灸学校社 針灸治療院</p>	<p><b>老人養草</b> 日6冊、一八〇円        石山針灸学校社 針灸治療院        石山針灸学校社 針灸治療院        石山針灸学校社 針灸治療院</p>	<p><b>簡明不問診察法</b> 日6冊、一八〇円        石山針灸学校社 針灸治療院        石山針灸学校社 針灸治療院        石山針灸学校社 針灸治療院</p>	<p><b>鍼灸医術の門</b> 日6冊、一八〇円        石山針灸学校社 針灸治療院        石山針灸学校社 針灸治療院        石山針灸学校社 針灸治療院</p>	<p><b>鍼灸治療医典</b> 日6冊、一八〇円        石山針灸学校社 針灸治療院        石山針灸学校社 針灸治療院        石山針灸学校社 針灸治療院</p>	<p><b>補鴻論集</b> 日6冊、一八〇円        石山針灸学校社 針灸治療院        石山針灸学校社 針灸治療院        石山針灸学校社 針灸治療院</p>	<p><b>先哲医談</b> 日6冊、一八〇円        石山針灸学校社 針灸治療院        石山針灸学校社 針灸治療院        石山針灸学校社 針灸治療院</p>	<p><b>新・養生物語</b> 日6冊、一八〇円        石山針灸学校社 針灸治療院        石山針灸学校社 針灸治療院        石山針灸学校社 針灸治療院</p>
---	--	---	--	--	--	--	--